

## 平成31年度 学校評価実施報告書

学校名 ( 太秦中 )

学校)

|                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| <b>教育目標</b>                         |   |
| 自ら考え行動し、協働できる生徒の育成<br>～つながりを意識した学校～ |   |
| <b>年度末の最終評価</b>                     |   |
| 自己評価                                | <p><b>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラム・マネジメントを行い、各種アンケート、生徒の様子、関係者の声等から、学校教育目標の達成に手応えを感じている。しかし、まだ見直す点が多く、次年度もこの目標を掲げて、生徒の育成を目指すことにしている。特に今年は総合的な学習の時間を軸においた取組を行ってきたが、次年度においては、今年以上に授業にも力を入れて、生徒の資質能力の向上を図り、学校教育目標達成が達成できるよう「協働の基盤となる言語能力の向上」を目指したい。</li> <li>次年度に向けた見直しの一つとして、目指す生徒像を学校教育目標に連動させる形に変更することになった。その目指す生徒像は「周りに耳を傾け、自分の考えを適切に伝えられる生徒」とした。</li> </ul> |
| 学校関係者評価                             | <p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>※新型コロナウィルスの感染防止の観点より学校運営委員会が中止になった。</p>   |

## 学校関係者評価の評価日・評価者

|      | 評価日       | 評価者     |
|------|-----------|---------|
| 中間評価 | 11月15日    | 学校運営協議会 |
| 最終評価 | 3月16日（中止） | 学校運営協議会 |

## (1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

|                      |
|----------------------|
| <b>重点目標</b>          |
| 「協働する力の基盤となる言語能力の育成」 |
| <b>具体的な取組</b>        |

- 自ら課題を見つけ、自主的に取り組む家庭学習の定着。
- 授業改善（主体的対話的で深い学び）に向けた教科主任会・教科会の充実。
- 計画的な授業実践のための、年間の学習指導計画の作成。
- 授業改善に向けた校内授業研究（11月）、小中合同授業研究（6月・10月）の推進。
- 授業力向上を目指した「若手・中堅教員実践道場」のさらなる推進。
- 学習確認プログラムの分析と定期的な生徒アンケートの実施と分析。
- 校外の研修会や授業研究会等への参加の積極的推奨と、学んだことを校内で共有する研修の充実。

- ・朝読書のさらなる充実。
- ・図書館活用の推進。
- ・学生ボランティアを活用した、学習会（土曜学習・未来スタディ事業）のさらなる推進。
- ・学力向上を支える大きな機能の一つである、「生徒指導力」の向上を目指した取組の推進。

**(取組結果を検証する) 各種指標**

- ・ジョイントプロ・学プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果。
- ・家庭学習の点検結果。
- ・生徒・保護者アンケートの結果
  - ①自主的に家庭学習が出来ましたか
  - ②コミュニケーション力がついたと思いますか
  - ③友人や先輩、後輩とつながっていると思いますか
- ・教職員アンケートの結果
  - ①「言語能力」を意識した授業が行えましたか
  - ②生徒が自ら考え、行動できるように指導できていますか

## 中間評価

**各種指標結果**

- ・ジョイントプロ・学プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果
  - [ジョイントプログラム] : 1年4月実施：総合では全市平均並み  
【平均以上の教科：国語】
  - [学プロ] : 2年7月実施：総合では全市平均並み  
【平均以上の教科：国語、数学、英語】
  - 3年5月実施：総合では全市平均並み  
【平均以上の教科：国語、社会、英語】
  - [全国学力調査] : 3年5月実施：  
【平均以上の教科：国語、数学、英語】
- ・生徒・保護者アンケートの結果
  - ①自主的に家庭学習が出来ましたか
    - 「そう思う」生徒 45%，保護者 43%，「そう思わない」生徒 15%，保護者 24%
    - ②コミュニケーション力がついたと思いますか
      - 「そう思う」生徒 58%，保護者 58%，「そう思わない」生徒 5%，保護者 6%
      - ③友人や先輩、後輩とつながっていると思いますか
        - 「そう思う」生徒 76%，保護者 78%，「そう思わない」生徒 3%，保護者 2%
  - ・教職員アンケートの結果
    - ①「言語能力」を意識した授業が行えましたか
      - 【よく出来ている 21%，だいたいできている 57%，あまりできていない 21%，できていない 0%】
      - ②生徒が自ら考え、行動できるように指導できていますか
        - 【14%，71%，14%，0%】

自己

**分析（成果と課題）**

- ・言語能力の育成を目指した教育活動を行い、主たる役割を果たす国語、英語の学力が伸びてお

|         |  |
|---------|--|
| 評価      | <p>り、一定の成果があつたと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の定着ができていると言える生徒の割合は低く、自ら学ぶ姿勢の育成はまだまだである。</li> <li>・協働に関しては、行事や各授業で意識した取り組みができており、成果があつたと思われる。</li> <li>・低学力の生徒への意欲向上と基礎学力の向上が課題で、放課後等の補習学習（みらずた事業）を行いたいが、ボランティアが集まらない。</li> <li>・教職員アンケートで学校教育目標である自ら考え行動する指導ができていない回答があるのが大きな課題である。</li> </ul>                       |
|         | <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語能力の育成にむけて、総合学習や国・英以外の教科指導にも力を入れる。</li> <li>・家庭学習の定着を目指すために研究部で再度策を練る。</li> <li>・放課後、学習する場（図書室解放など）の提供を行う。</li> <li>・学校教育目標の徹底を職員会議、研修会等で意識させる。また、運営委員会や生徒指導部会など学校運営に関わる教職員の集まる時でも同様に行う。</li> </ul>  |
|         | <p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種テスト結果</li> <li>・生徒アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>①自主的に家庭学習が出来ましたか</li> <li>②勉強することは楽しいか</li> </ul> </li> <li>・教職員アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒は自主的に家庭学習をしていると思いますか</li> <li>②生徒は意欲的に学習していましたか</li> </ul> </li> </ul> |
| 学校関係者評価 | <p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト結果が良いのを見ても学校の取り組みがうまくいっていることがよくわかる。</li> <li>・体育大会や文化祭をみても生徒が活き活きして学校生活を楽しんでいるように見える。</li> <li>・これが学力向上にも結び付いているのだろうと思う。</li> </ul>  |

## 最終評価

|   |
|---|
| <p><b>中間評価時に設定した各種指標結果</b></p> <p>各種テスト結果</p> <p><b>【1年】 ジョイントプログラム：【平均以上の教科：国語】</b><br/> <b>Basic Stage1：【平均以上の教科：社会、数学、英語】</b><br/> <b>Basic Stage2：【平均以上の教科：国語、社会、数学、英語】</b></p> <p><b>【2年】 Pre-stage1 【平均以上の教科：国語、数学、英語】</b><br/> <b>Pre-stage2 【平均以上の教科：国語、社会、数学、理科、英語】</b></p> <p><b>【3年】 1st Stage 【平均以上の教科：国語、社会、英語】</b><br/> <b>2nd Stage 【平均以上の教科：国語、社会、数学、理科、英語】</b></p> |
|---|

|              |   |
|--------------|---|
| ・生徒アンケート     | <p>①自主的に家庭学習が出来ましたか？「そう思う」の回答</p> <p>生徒（7月）45%⇒（12月）39%</p> <p>保護者（7月）43%⇒（12月）42%</p> <p>②勉強することは楽しいか</p> <p>生徒（12月）「はい」26%，「いいえ」27%</p>   |
| ・教職員アンケートの結果 | <p>①生徒は自主的に家庭学習をしていると思いますか</p> <p>「はい」38%，「いいえ」62%</p> <p>②生徒は意欲的に学習していましたか</p> <p>「はい」82%，「いいえ」18%</p>   |
| 自己評価         | <p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <p><b>【分析】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身自主的に家庭学習ができていると思っている生徒が少なく、前回より減っている。家庭学習を与えられれば行うが、与えられなければ自主的に行うことができる生徒が少ないのではと考えられる。次年度当初で改善方法を再考予定。</li> <li>言語能力の向上については、テスト結果や生徒の様子から、総合学習や国・英、それ以外の教科指導の成果であったと考えられる。</li> <li>放課後、学習する場（図書室解放など）の提供は行うことができた。</li> <li>学校教育目標を徹底して意識させることができ、大多数の教職員が目標達成に向けて、活動できた。</li> <li>今年も昨年に引き続き、総合の時間を活用しての目標達成を目指し、それなりの手応えを得た。しかし、十分な活動を取り入れられている教科もあるが、まだまだ教科での目標達成の活動が不十分であると考えられる。</li> </ul> <p><b>【重点目標】</b></p> <p>目標の「協働する力の基盤となる言語能力の育成」はよい評価ができる1年であったと思う。次の課題は教科でのさらなる育成と外部資源の活用である。</p> |
| 学校関係者評価      | <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材に重点を置いた取組を行う。そのために教科会を定期的・効果的に行い、他校での研究成果の伝達研修を行うなど、授業改善していく予定である。</li> </ul> <p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>中止によりなし。</p>  |

## (2) 「豊かな心」の育成に向けて

### 重点目標

- ・自己有用感を高め、自尊感情の高揚を図り、自他を大切にする心など、豊かな人間性の育成を目指す。
- ・道徳教育の充実を図る。

### 具体的な取組

- ・生徒が関わる周りの人たちとのつながりを意識し、自己有用感・自己肯定感が得られる取り組みを推進する。
- ・道徳教育の在り方について、「それ自体が学習経験となる『評価』を目指し、研究を進める。
- ・生徒たち自身の手による「より質の高い集団作り」に向け、生徒会活動の一層の活性化を図る。
- ・「生徒を切り捨てない」「生徒を切り離さない」を基底に据え、共感的な生徒理解に基づく個に応じた指導の推進を図るとともに、生徒相互、生徒と教職員の受容的・共感的な関係の深化を図る。
- ・学校経営の柱に「受容的・共感的な人間関係の育成」を置き、一人一人が大切にされていると実感できる学級づくりを推進する。
- ・研修等を通じ、教職員のスキルアップを図り、よりよい「教育相談」の実践を推進する。
- ・「尊厳」をキーに、教育活動全体を通して、人権尊重の精神を育む。

### (取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒・保護者アンケート
  - ①自分を大切にしていますか。
  - ②他人を大切にしていますか。
  - ③一人一人が大切にされている学級ですか。
  - ④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか
  - ⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか

## 中間評価

### 各種指標結果

- ・生徒・保護者アンケート
  - ①自分を大切にしていますか。  
「そう思う」生徒 64%, 保護者 81%, 「そう思わない」生徒 4%, 保護者 1%
  - ②他人を大切にしていますか。  
「そう思う」生徒 78%, 保護者 83%, 「そう思わない」生徒 2%, 保護者 1%
  - ③一人一人が大切にされている学級ですか。  
「そう思う」生徒 67%, 保護者 74%, 「そう思わない」生徒 5%, 保護者 1%
  - ④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか  
「そう思う」生徒 76%, 保護者 78%, 「そう思わない」生徒 3%, 保護者 2%
  - ⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか  
「そう思う」生徒 74%, 保護者 90%, 「そう思わない」生徒 2%, 保護者 0%

自己

### 分析（成果と課題）

- ・体育祭や文化祭、校外学習など、生徒が関わる周りの人たちとのつながりを意識し、自己有用

|         |   |
|---------|---|
| 評価      | <p>感・自己肯定感が得られる取組が実施できたと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒たち自身の手による「より質の高い集団作り」に向け、生徒会活動の一層の活性化を図れたと思う。</li> <li>一人一人が大切にされていると実感できる学級づくりが完璧にできているとは言えず、研修等を通じ、教職員のスキルアップを図る必要がある。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級づくりやいろいろな指導において、P D C AのC（チェック）、A（改善）を行い、次に生かす。</li> </ul> <p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>①いろいろな指導についてC Aを行い、次に活かせることができたか。</li> </ul> </li> </ul>   |
| 学校関係者評価 | <p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>親と子のつながりを感じる保護者の割合はかなり高いが、どんなコミュニケーションがとれているのだろうか。家庭によってかなり差があるのでないだろうか。</li> <li>生徒と先生に同じ質問をしてもらいたい。その回答に乖離がなければいいのだが、あれば改善を図ることによってさらに良い活動ができるようになるはず。</li> </ul>   |
| 最終評価    |   |
| 自己評価    | <p><b>中間評価時に設定した各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員アンケートの「いろいろな指導についてC Aを行い、次に活かせることができたか。」「はい」⇒7 6 %、「いいえ」⇒2 4 %</li> <li>自分を大切にしているか「はい」 前回6 4 %⇒2回目6 9 %</li> <li>他人を大切にしているか「はい」 7 8 %⇒7 8 %</li> <li>一人一人が大切にされている学級ですか「はい」 6 7 %⇒6 9 %<br/>「いいえ」 4. 6%⇒2. 7%</li> </ul> <p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カリマネに重要なP D C Aを行っていると思っている教職員が4人に3人という結果であった。4人のうち、1人は行えていないことになるが、そのうちのほとんどはやろうとしているが、実力がついて行っていないと思われる。若い教職員は経験が少なく、必要な何かが足らず、効果的な指導ができていないように見える。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修（校内研修、若手道場、通常の会話等）で、何かをつかめるような機会をさらに設けたい。</li> </ul> |
| 学校関係者評価 | <p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>中止によりなし。</p>  |

### (3) 「健やかな体」の育成に向けて

#### 重点目標

生涯にわたって自らの健康をコントロールし、改善していく力の育成

#### 具体的な取組

- ・運動することの楽しさを味わい、生涯スポーツにつながる体育学習や運動部活動のより一層の充実。
- ・食事、運動、休養・睡眠など調和のとれた生活習慣を身につけさせる。
- ・飲酒、喫煙、薬物の有害性・危険性や医薬品についての正しい知識の習得と行動化。
- ・心身の健康の保持増進を目指した食教育の推進。
- ・交通事故や水難事故、熱中症、転落事故等様々な危険から身を守るために知識や判断力を養う安全教育の充実。
- ・地震・台風・大雨・火事等の災害は身近に起こりうるものとして「主体的に行動する態度」を育成する防災教育の推進。

#### (取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒アンケート
  - ①防災や喫煙・薬物の危険性がわかりましたか
  - ②規則正しい生活習慣ができますか。
  - ③自らの健康増進ができますか。

### 中間評価

#### 各種指標結果

- ・生徒アンケート
  - ①防災や喫煙・薬物の危険性がわかりましたか  
「そう思う」生徒 89%, 保護者 88%, 「そう思わない」生徒 0%, 保護者 2%
  - ②規則正しい生活習慣ができますか。  
「そう思う」生徒 46%, 保護者 44%, 「そう思わない」生徒 12%, 保護者 0%
  - ③自らの健康増進ができますか。  
「そう思う」生徒 49%, 保護者 48%, 「そう思わない」生徒 16%, 保護者 10%

#### 自己評価

#### 分析（成果と課題）

- ・防災や喫煙・薬物の危険性についての学習を行った結果、かなりの生徒が知識を得たと思われる。
- ・規則正しい生活習慣ができるていると思う生徒も保護者もまだまだ少ない。
- ・なにもしなければ健康を意識することは難しいが健康を意識させる必要はある。まだまだ指導の必要性がある。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・防災や喫煙・薬物の危険性についての学習は定期的に行う必要がある。
- ・生徒全体に指導していくとともに個々にも指導していく必要がある。

#### (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・教職員アンケート

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>①健康増進に向けて指導をしましたか。</p> <p>②規則正しい生活習慣ができるように生徒・保護者にはたらきかけましたか。</p>   |
| 学校関係者評価 | <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>不登校の生徒の様子が気になるが、昔とは違い精神的な面の支援が必要になってきている。</li> <li>学校から生徒への働きかけだけでなく、その保護者を地域で支援できればと思う。</li> </ul> |

#### 最終評価

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>①健康増進に向けて指導をしましたか。<br/>「はい」⇒ 67%</p> <p>②規則正しい生活習慣ができるように生徒・保護者にはたらきかけましたか。<br/>「はい」⇒ 64%</p>  |
| 自己評価    | <p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートの「規則正しい生活ができますか」の問いは7月から12月にかけて、できていないと答えた割合が12.4%⇒11.9に減っており、取組が一定の効果があったと思われる。また、「自らの健康増進ができますか」の問いは、出来ていないが8.4%⇒7.8%であったことから同様に評価できる。</li> <li>課題は教職員の生徒への健康増進に向けて指導率、保護者へのはたらきかけの低さである。また、そのはたらきかけの方法を研修することにより個々の教職員の指導力を上げる必要がある。</li> <li>次年度の課題としては、その研修時間をどう生み出すかである。</li> </ul> |
|         | <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講師を招いての講演等を開き、食教育を始めいろいろな知識の提供が行えたことは生徒や保護者により影響を与えることが出来た。</li> <li>飲酒、喫煙、薬物の有害性・危険性や医薬品についての正しい知識の習得についても、生徒・保護者のアンケートを見る限り十分であったといえる。</li> <li>地震・台風・大雨・火事等、交通事故や水難事故、熱中症、転落事故等様々な危険から身を守るために安全教育は充実していたと思われる。</li> <li>上記取組については現状を維持するでよいと思われる。ただし、こちらのはたらきかけ等改善の余地がある。</li> </ul>                        |
| 学校関係者評価 | <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>中止によりなし。</p>   |

#### (4) 学校独自の取組

##### 重点目標

「うずまさの人づくり～次代の太秦地域を支え、作り上げていく人材の育成～」

小中一貫した取組の中で、地域を愛し、学ぶ意欲に溢れ、未来を切り拓ける心豊かな児童・生徒を育成する

##### 具体的な取組

- ・小中校長会、小中主任会のさらなる推進。
- ・小中合同研究授業、小中合同研修会の充実。
- ・相互の行事等への積極的参加。
- ・小中一貫で、道徳教育についての研究の推進。
- ・小中一貫で、学校評価の在り方についての研究。
- ・生徒会と児童会のさらなる連携。
- ・小学生と中学生が、共に学びともに活動する場の創造。
- ・小学生の授業体験と部活見学への参加。
- ・小中 PTA の合同行事を通した連携。

##### (取組結果を検証する) 各種指標

- ・教職員アンケート

①小中一貫教育（小中連携）が進むようにあなた自身も意識し、行動していますか。

#### 中間評価

##### 各種指標結果

- ・教職員アンケート

①小中一貫教育（小中連携）が進むようにあなた自身も意識し、行動していますか。

【11%, 29%, 50%, 11%】

##### 自己評価

##### 分析（成果と課題）

- ・小中授業研修を年2回行えた。
- ・中学作品の小学校での展示を行なう。
- ・新たに教務・研究合同係会を今後行うことを計画中である。
- ・小中連携を進める上でどう関わったらいいかがわからならぬのではないかと思われる。また、小中連携が進んでいることがわかっていないのではないかと思われる。

##### 分析を踏まえた取組の改善

- ・小中連携の取組の周知ができていないと考え、教職員の集まり（職員会議や研修会、メール等）で各部署から周知を徹底する。その上で、指導に行かせてもらう。

##### （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・小中一貫教育（小中連携）の取組を3つ上げることができますか。

##### 学校関係者評価

##### 学校関係者による意見・支援策

- ・小中一貫教育推進のため生徒会、児童会の協働事業にPTAや学校運営協議会も参加するなど支援できればと思う。
- ・教職員への小中連携の必要性を周知させるための研修会が必要なら、推進校から講師を招へいするなどの支援を行いたい。

## 最終評価

|   |  |
|---|--|
| 中間評価時に設定した各種指標結果  |  |
| ・「小中一貫教育（小中連携）の取組を3つ上げることができますか」の教職員アンケートでできるところえたのは約1／3であった。 |  |
| 自己評価  | <p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・小中一貫にむけてさらなる取組を進めることができた。</li><li>しかし、取組という形だけで、まだまだ教職員（小学校も）が一貫教育の有効性を認識していないように感じる。</li><li>・教職員の認識を変える必要がある。</li></ul> |
|   | <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・次年度小中合同で講師を招いて小中一貫の有用性についての研修を行う予定。</li></ul>   |
| 学校関係者評価   | <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>中止によりなし。</p>  |

## （5）業務改善・教職員の働き方改革について

|   |
|---|
| 重点目標  |
| 教職員の超過勤務時間の縮減を目指す   |
| 具体的な取組  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・学校運営の組織化</li><li>・各部の長による部の統括</li><li>・個々の教職員のレベルアップ</li><li>・管理職による面談</li></ul>   |
| (取組結果を検証する) 各種指標  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・教職員アンケート<ul style="list-style-type: none"><li>①「働き改革を意識して、超過勤務時間縮減ができますか。」</li><li>②「学校運営の組織化が進んでいると感じますか」</li><li>③「気持ちよく働けていますか」</li></ul></li><li>・出退勤システムによる超勤時間が増減データ</li><li>・ストレスチェック</li></ul> |

## 中間評価

|   |
|---|
| 各種指標結果  |
| ・教職員アンケート   |
| ①「働き改革を意識して、超過勤務時間縮減ができますか。」<br>【14%, 36%, 46%, 4%】 |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>② 「学校運営の組織化が進んでいると感じますか」<br/>【14%, 57%, 18%, 11%】</p> <p>③ 「気持ちよく働けていますか」<br/>【29%, 64%, 4%, 4%】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出退勤システムによる超勤時間が増減データ<br/>昨年より多い。平均 10 時間／月（370 時間／月）<br/>80 時間以上超勤の教職員が多い月がある。</li> <li>ストレスチェック<br/>結果はまだ返ってきていない。</li> </ul>  |
| 自己評価    | <p><b>分析（成果と課題）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>働き改革を意識して働いてもらっていると思われるが、超過勤務時間短縮までは至っていない。原因としては、若手が大幅に増えたため教材研究や学級経営準備に時間がかかる、生徒指導が増え解決に時間が多くかかっている。また、中核（主任級・部長級）が大幅に交代した、と考えられる。</li> <li>忙しい時期（4月5月, 9月10月）はどうしても超勤時間が増えてしまう。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各個人の指導力の向上<br/>適切な指示が出せる主任や部長級の成長。<br/>若手の成長、そのためのフォローの促進。</li> <li>大幅な行事の精選。</li> <li>申し送りの文書化</li> </ul> <p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>①あなたは指導力が向上しましたか。</li> <li>②超勤縮減を意識して働けましたか。</li> </ul> </li> </ul> |
| 学校関係者評価 | <p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師を目指す学生が少なくなったと思う。近くにボランティアをしてくれる子がいたら声をかけます。</li> <li>2年連続で採用試験の面接官を務めたが、たまたまかもしれないが今年の方が質は良くなかった。それだけ、教師になりたい人が少なくなってきたていると思う。</li> <li>様々な取り組みの時間や人材の確保がしにくい今の状況で学校運営していくのは大変だと思う。</li> <li>超勤時間を減らすには、人を多く雇うか、厚遇して優秀な人材を集めるのがいいと思う。</li> <li>超勤時間が減っても持ち帰り仕事が多くなるのでは意味がない。仕事量を減らす工夫が必要。</li> </ul>  |

## 最終評価

|  |
|--|
| <p><b>中間評価時に設定した各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>① あなたは指導力が向上しましたか。82%が「はい」と回答。</li> <li>② 超勤縮減を意識して働けましたか。「はい」のうち、「よくできた」が 14%⇒24%<br/>「出来ていない」が 4%⇒21%</li> </ul> </li> </ul> |
|--|

|                         |   |
|-------------------------|---|
|                         | <p><b>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各個人の指導力は向上したと考えられる。</li> <li>適切な指示が出来る主任や部長級の成長については、さらなる時間が必要。</li> <li>大幅な行事の精選は進んだ。</li> <li>申し送りの文書化も進んだ。</li> <li>課題はこれらのことを行なうことだとと思われる。</li> <li>仕事量の多さから超勤が多いと思われる。仕事の簡素化、合理的なはたらき方を確立しなければならない。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題はこれらのことを行なうことだとと思われる。</li> <li>教職員の意識改革もさらに必要である。</li> </ul> |
| 学校<br>関係<br>者<br>評<br>価 | <p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>中止によりなし。</p>  |